



2017年2月23日

各位

会社名 株式会社 コックス
 代表者名 代表取締役社長 吉竹 英典
 (コード番号: 9876 JASDAQ)
 問合せ先 取締役管理本部長 速水 英樹
 (TEL: 03-5821-6070)
 当社の親会社 イオン株式会社
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号: 8267 東証第1部)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2017年2月期(2016年3月1日~2017年2月28日)の通期業績予想について、2016年4月13日に発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2017年2月期(2016年3月1日~2017年2月28日)連結業績予想の修正

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	22,000	300	460	50	1.81
今回修正予想 (B)	20,900	△170	5	50	1.81
増減額 (B-A)	△1,100	△470	△455	—	—
増減率 (%)	△5.0	—	△98.9	—	—
(ご参考)前期実績 (2016年2月期)	21,338	△414	△245	△735	△26.67

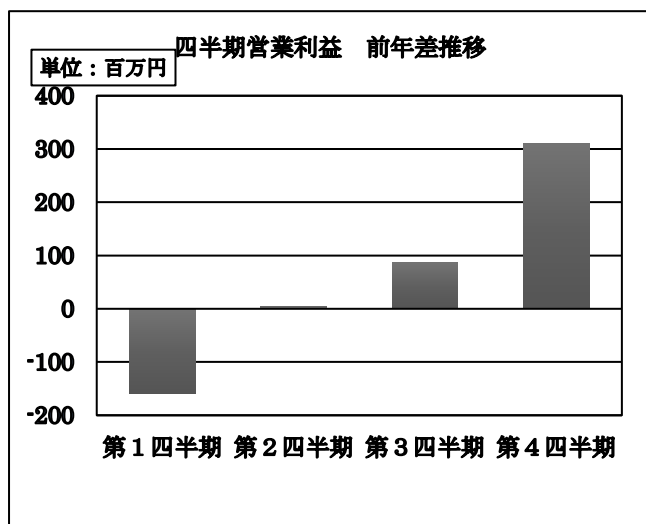
2. 修正の理由

当期は、前期の冬物商戦から崩れたMDサイクルの正常化を最優先に取り組み、商品のシーズン切り替えを進めました。第1四半期のMD修正期間中の売上高計画未達が大きく影響し、第1四半期は前年同期より159百万円の営業減益になりました。在庫修正が完了したゴールデンウィーク期間については前年売上高を上回り、また第2四半期は、ゴールデンウィーク期間中に確認できた売れ筋を反映させる品揃えにシフトするとともに、価格設定を見直したことにより、既存店前年売上も回復してきました。第3四半期以降においても、シーズン先行させた鮮度ある商品をお値打ち価格で訴求したことにより、売上高は前年を超過しております。さらに客数についても、6月度から1月度まで7ヶ月連続で既存店前年比を超過しました。その結果、営業利益の前年改善額は、四半期を経る毎に拡大しております。

しかしながら、第1四半期の売上高計画未達分を、年末年始を含んだ12月以降の商戦で上積みしきれず、公表数値を下回る見通しとなりました。また、当第4四半期において、当社が保有する投資有価証券の一部を売却し、投資有価証券売却益4億60百万円を特別利益に計上する見込みです。

(連結営業利益前年差)

営業利益	第1四半期 (3～5月度)	第2四半期 (6～8月度)	第3四半期 (9～11月度)	第4四半期見通し (12～2月度)
前年改善額 (百万円)	▲159	+4	+87	+310



来期に向けては、当期において成果のあった、シーズン先行させた在庫内容でのプロパー販売強化と、在庫効率の向上を継続することで、売上高の増加及び売上総利益の改善を図ります。

また、今後ますます加速するお客さまの動向や競争環境の変化に対応するため、店舗・商品本位の改革を実行し、店舗を起点とした経営により、お客さま満足の実現を追求します。来期施策推進のため、機構改革を2月21日付で実施し、早期の業績回復を目指します。

(注) 上記の業績予想は、本資料発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上